

## 米軍普天間基地所属 MV-22 オスプレイのオーストラリア沖墜落事故に対する抗議決議

去る 8 月 5 日、オーストラリア東海岸で訓練中の米軍普天間飛行場所属垂直離着陸輸送機 MV-22 オスプレイが海上に墜落する事故が発生した。

米軍普天間基地所属の MV-22 オスプレイについては、昨年 12 月、夜間訓練中に名護市安部の沿岸部に不時着水し大破する事故が発生、さらに同日、別のオスプレイが普天間飛行場で胴体着陸したことが確認されたほか、本年 6 月にも伊江島補助飛行場や奄美空港への緊急着陸が報じられるなど、開発当初から欠陥機との指摘があった同機の事故が相次ぎ、また、事故を受け飛行自粛を求める声にも米軍の都合を優先し訓練を続ける姿勢に沖縄県内のみならず日本国内に不信の声が広がっている。

オスプレイについては、全県挙げての強硬配備反対の声を押し切り配備された背景もあり、本市においても普天間飛行場を離発着するオスプレイによる本市東部地区の騒音の増大が確認されるなど市民の不満が募る中、海外での事故とは言え米軍普天間基地に配備されたオスプレイによる今回の事故は決して対岸の火事ではなく、たびたび住宅密集地の頭上を飛ぶこともある沖縄で、万が一にも事故が起きれば、基地周辺住民をも巻き込む大惨事となることは明白であり、断じて看過できるものではない。

よって、沖縄市議会は市民の生命・財産・安全を守る立場から、米軍普天間基地所属 MV-22 オスプレイのオーストラリア沖墜落事故に対し、厳重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実現を要求する。

### 記

1. 事故原因が究明されるまでの間、オスプレイの飛行を中止すること。
2. 全ての米軍機について徹底した整備と安全管理の強化を図ること。
3. 原因を徹底的に究明し、早急に公表すること。

以上、決議する。

平成 29 年 9 月 14 日

沖 縄 市 議 会

宛 先

駐日米国大使            在日米軍司令官            第三海兵遠征司令官  
在日米軍沖縄地域調整官            在沖米国総領事